

農業・農村のナレッジマネジメントに関する研究



環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻
准教授

山口 創

YAMAGUCHI, So



● 研究内容

我が国の農村地域では、過疎高齢化の進行、生活様式の変化により、資源管理や生活、農業生産に関わる地域固有の知識が喪失されようとしている。このような地域固有の知識は、一度失われると再蓄積が難しく、必要に応じて次世代へ継承できる仕組みを構築することが求められる。こうした背景のもと、農業生産や地域資源管理に関する知識の共有や継承の実態を明らかにするとともに、現在の社会システムに対応したナレッジマネジメントモデルの構築に取り組んでいる。

● 想定パートナー

自治体、まちづくり協議会、営農組織、農業協同組合等

● 応用分野

営農活動、地域資源管理におけるナレッジマネジメント支援

地域計画策定に関わる基礎的調査支援(インタビュー調査、アンケート調査)及び助言

在来品種等の農作物のブランド化支援

● 取組実績

【企業、行政等との連携実績】

- ・兵庫県市川町「笠形オーガニックファーマーズ ナレッジマネジメント支援」(2018年4月～2019年3月)
- ・新温泉町「総合計画審議会アドバイザー」(2021年4月～2022年3月)
- ・鳥取県産業振興機構「新生活空間創造プロジェクト オブザーバー」(2021年4月～2023年3月)
- ・JA鳥取県中央会「第51回JA鳥取県大会審議幹事会委員」(2024年4月～10月)
- ・若桜農林振興「若桜町産えごまの特産化支援」(2022年4月～)

分野

農林・水産業／地域振興

キーワード

地域づくり／ナレッジマネジメント／地域資源管理／在来品種／伝統野菜／有機農業

在来品種の特産化に関する研究



環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻
准教授

山口 創

YAMAGUCHI, So



研究内容

在来品種とは、地域で伝統的に栽培と自家採種が繰り返され、特有の形質を獲得した品種であり、全国各地に存在しているが、栽培が難しいなどの理由からF1品種への置き換えが進んでおり、各地で喪失の危機に瀕している。一方、京の伝統野菜のように優れた形質が評価され、地域ブランドを構成する品種として産地が形成されている事例もみられる。そこで本研究では、各地に眠る在来品種が地域資源として活用できる可能性があると考え、特産化プロセスの解明や活用の仕組みの構築に取り組んでいる。

想定パートナー

自治体、まちづくり協議会、営農組織、農業協同組合等

応用分野

営農活動、地域資源管理におけるナレッジマネジメント支援

地域計画策定に関わる基礎的調査支援(インタビュー調査、アンケート調査)及び助言

在来品種等の農作物のブランド化支援

取組実績

【企業、行政等との連携実績】

- ・兵庫県市川町「笠形オーガニックファーマーズ ナレッジマネジメント支援」(2018年4月～2019年3月)
- ・新温泉町「総合計画審議会アドバイザー」(2021年4月～2022年3月)
- ・鳥取県産業振興機構「新生活空間創造プロジェクト オブザーバー」(2021年4月～2023年3月)
- ・JA鳥取県中央会「第50回JA鳥取県大会審議幹事会委員」(2024年4月～10月)
- ・若桜農林振興「若桜町産えごまの特産化支援」(2022年4月～)